

Nara National Museum

奈良国立博物館

だより

第 **107** 号

平成30年 10・11・12月



犀角如意 頭部 (正倉院宝物 南倉)

特別展

第70回
正倉院展

10月27日(土)~11月12日(月)
東・西新館

特別陳列

おん祭と春日信仰の美術
-特集 大宿所-

12月11日(火)~平成31年1月20日(日) 東新館

特集展示

新たに修理された文化財

12月26日(水)~平成31年1月20日(日) 西新館

名品展

珠玉の仏たち

通期開催 なら仏像館

中国古代青銅器

通期開催 青銅器館

珠玉の仏教美術

12月11日(火)~ 西新館

第70回 正倉院展

10月27日(土)～11月12日(月)

第七十回の節目を迎える本年の正倉院展には、五十六件の宝物が出陳されます。正倉院宝物の全貌のうかがえる内容ですが、平成二十五～二十七年度に行われた麻製品に関する特別調査の成果を踏まえる点が一つの特徴になっています。

麻は現在も私たちの生活に身近な存在です。夏物の生地や麻紐、帆布や蚊帳など、丈夫な素材として重宝され、木綿が主流になるまでは、衣類の生地といえば麻が中心でした。また律令時代には、麻布が税の一種である調・庸として納められるなど、非常に重要な存在でした。ただし一口に麻といっても大麻と苧麻、そしてこれらに似た靱皮繊維を使用するものがあり、様々な「麻」によって製品が作られたようです。

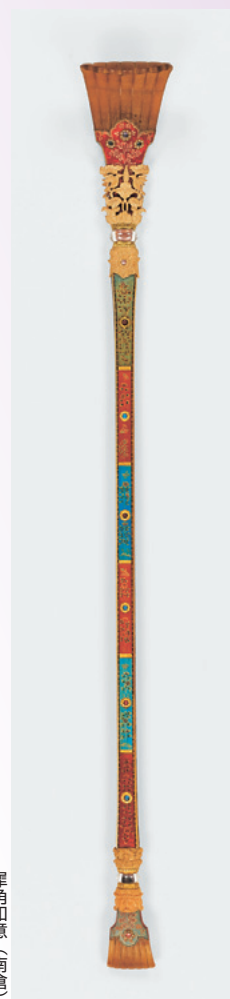
措布屏風袋は、麻布の強靱さを活かした大型の調度品の袋です。写真の一点は上野国（現在の群馬県）の庸布が使われており、素材は藤に似た繊維と推定されています。本年出陳のもう一点の措布屏風袋も上野国の庸布で、こちらは大麻製と苧麻製の布が併用されています。

一方、麻布は丈夫なため、芯材としても使用されました。櫃覆町形帯の芯は伊豆国（現在の伊豆半島及び伊豆諸島）からの貢納品で、大麻製の麻布が用いられています。また、本年出陳の二両の繡線鞋の芯にも大麻製の麻布が使用されています。

加えて、麻は古くから紐にも使用されており、銅匙を束ねる紐も藤に似た繊維を使って作られています。

繡線鞋は中国・唐製、銅匙は朝鮮半島・新羅製と考えられ、日本だけでなく東アジアでの麻製品の利用の様相がわかるのも、正倉院宝物ならではといえるでしょう。

もちろん麻製品だけでなく、象牙や玳瑁、犀角、瑪瑙など貴重な素材を用いた煌びやかな宝物が本年も展示室を彩ります。古代の生活や文化を今に伝える正倉院宝物——その尽きせぬ魅力が、正倉院展が長く続く一つの理由となっていることは間違いありません。



犀角如意(南倉)



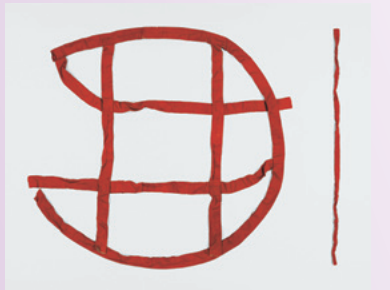
沈香木画箱(中倉)



山水図 部分(中倉)



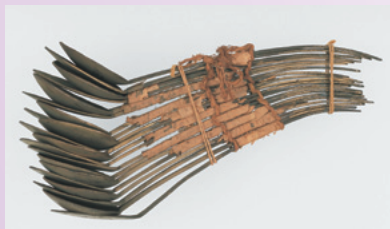
措布屏風袋(その1)(北倉)



櫃覆町形帯(南倉)



繡線鞋(その2)(北倉)



銅匙(その1)(南倉)

おん祭と春日信仰の美術

―特集 大宿所―

12月11日(火)～平成31年1月20日(日)

春日若宮おん祭は、春日大社の摂社である若宮社の祭礼で、平安時代の保延二年(一一三六)に始まったとされ、今年で八八三年目を迎えます。おん祭では、若宮神が御旅所に一日だけ遷座されますが、そこに芸能者や祭礼の参加者が詣でる風流行列が有名です。

本展覧会は、おん祭の歴史と祭礼の様子を紹介する恒例の企画です。今回は、華やかな風流行列の様子を描く絵巻を展示するとともに、祭礼に参加する大和土の潔斎の場であった大宿所について取り上げ、祭礼でにぎわう江戸時代の奈良町の様子も紹介します。



献菓子台(春日大社)



春日若宮御祭礼絵巻 中巻(春日大社)



春日若宮御祭礼絵巻 上巻(春日大社)

新たに修理された文化財

12月26日(水)～平成31年1月20日(日)

長い時を経て今に伝わる文化財は、その多くが過去に修理を受けながら大切に保存されてきたものです。当館では、これらの文化財をさらに未来へと継承していくために、彫刻・絵画・書跡・工芸・考古の各分野の収蔵品(館蔵品・寄託品)について、毎年計画的に修理を実施しています。

本特集展示は、前年度までに修理された収蔵品の中から選りすぐった文化財を展示公開するものです。また、その修理内容についてもパネルでご紹介します。



重要文化財 鳳凰文戩金経箱(当館) 修理の様子

「糸のみほとけ」展の展示評

白鶴美術館顧問 山中 理

「糸のみほとけ」とはなんとほんやりした響きでしょうか。まず、題に惹かれました。そしてこの展覧会で教えられました。鎌倉時代以降にこれほど豊かな繡（しゅう）の世界が練り広げられていたとは思わず、ましてや、中国の繡（しゅう）（第五章）はほとんど念頭にものぼったことはありません。少し考えてみればそこが出発点なのにお恥ずかしい限りです。

いつもなら最後に降りていたスロープを逆に上って左に曲がりますと、目に飛び込んで来たのが第一章の「天寿国繡帳」（中宮寺蔵）で、画期的な展示構成の幕明けです。展示位置が刺繡の細部を肉眼でも鮮明に見て取れるほど近く、浮世絵版画の微妙な凹凸同様、間近でこそその醍醐味を味わうことが出来ます。即ち、発色の美しい諸（もろ）糸（いと）を使用した単純で力強い返し繡（ぬい）の飛鳥時代の原刺繡に比して、素人目には無残なほど薄茶色に退色してかなり劣ると思えた甘い撚（よ）り糸（いと）と撚（よ）りない平糸（ひらいと）を併用した鎌倉時代の新刺繡が実は多彩な繡技を駆使していると知った時、この繡帳に対する向き合い方が些（ち）か異な（ちが）って来たのです。

三点出品された白鶴美術館の作品の内、「金銅小幡」の展示の仕方はユニークで意表（いひょう）を突（つ）かれました。「金銅小幡」は金銅板全七坪が蝶番（もようが）で繋が（な）がれています。七坪目に当た（あた）るこの小幡（せうばん）最下段（さいげだん）の金具（きんぐ）に、本来繡（しゅう）仏（ぶつ）裂（れ）の類（るい）を挟（は）み込んで垂下（しりげ）させており、小口（せうぐち）部分（ぶぶん）に残（のこ）ったその幡足（ばんそく）裂（れ）の痕跡（こんせき）を見せる工夫（こうぶ）がなされてい（ま）りました。その代（た）り、あくまで金工（きんこう）に興味（きょうみ）を抱（かか）く立場（たてばた）からですが、北壁（きたか）側の全長（ぜんちやう）約二七メートルの展示（しゆ）ケース（けい）内に陳列（ちんれい）された、大きな灌頂（かんじやう）幡（ばん）の傍（たが）らにある「四隅（よすみ）小幡（せうばん）」（東京国立博物館蔵）の横笛（よこふエ）を吹（ふ）く天人（てんじん）が、「金銅小幡」のそれと微妙（びょうびょう）に違（ちが）う造形（ぞうけい）感（かん）を示（し）していることを比較（ひかく）検討（けんこう）するには難（が）しいと感じました。

巨（きよ）巻（まき）は何（なに）と言っても第三章（しやう）の国宝（こくほう）「刺繡（ししゅう）釈迦（じやく）如來（にょらい）説法（せっぽう）図（ず）」（奈良国立博物館蔵）です。特に中尊（ちゆうそん）倚坐（いざ）像（ざう）の直下（ちくか）左右（さうぶ）と最下（さいげ）段列（だんれい）で柄香（へいかう）炉（ろ）と塔形（とうがた）盒子（こ）子の両方（りやうほう）を捧持（ほうじ）供養（くやう）する俗人（ぞくじん）

一人（ひとり）と僧侶（そうりよ）三人（さんにん）（うち一人（ひとり）の塔形（とうがた）盒子（こ）子は脱落（だつらく））をこれほどの近（ちか）さで確認（かくん）出来（こ）て感無量（かむりやう）でした。三回目（さんかい）の見学（けんがく）でやっと気付（きづ）いたのが、菩薩（ぼさつ）では一番（いちばん）右下（げいか）下に位置（いち）するその裳（も）の上に、最初（さいしゆ）は塔形（とうがた）盒子（こ）子の一部（いっぶ）と見誤（みご）った水瓶（すいびやう）の断片（たんぺん）が貼（は）られていたこと（こと）です（す）（保存（ぼくぞん）修理（しゆり）の際（さい）、検討（けんたう）の末（すえ）、そのまま（そのまま）にされ（ま）りました）。展示（しゆ）ケース（けい）の能（あた）う限り（かぎり）前（まへ）で垂下（しりげ）させたこの繡帳（しゅうちやう）を見つめながら、担当者（たうとうしや）の決断（けつだん）、意気（いき）込み（こみ）のほど（ほど）を強く（つよく）感じて（かんじて）いました。

こういう大胆（だたん）な試み（し）みがなされる一方（いつぱう）で細（こ）やかな配慮（はいり）に基づ（た）づく繊細（せんさい）な展示（しゆ）方法（はうほう）も採用（さいよう）されています。平置（ひら置き）展示（しゆ）ケース（けい）内の刺繡（ししゅう）残欠（ざんけつ）は裂帖（れいせつ）（白鶴（はくかく）美術（びゆ）館（くわん）蔵（ざう））の見返（みへ）し横（よこ）の冒頭（ぼうとう）ページ（ぺい）に貼（は）られて（い）るのですが、繋（な）ぎの紙蝶番（しちやうばん）が剥（む）がれて（い）る箇所（か所）もあ（あ）り気（き）にな（な）って（い）りました。窓（まど）を設（た）けた全（ぜん）体を覆（お）う白（しろ）い箱（はこ）を被（お）せること（こと）で、目障（めざわ）りな部分（ぶぶん）を隠（かく）し、刺繡（ししゅう）裂（れ）だけ（だけ）が見（み）えるよう（よう）にな（な）って（い）ります。北（きた）側の壁（か）付（つ）き展示（しゆ）ケース（けい）でも別（べつ）の裂帖（れいせつ）に同（どう）様（やう）な工夫（こうぶ）が施（せ）されて（い）ましたが、その隣（りん）の小（こ）さな古（こ）裂帖（れいせつ）だけ（だけ）は見返（みへ）しも含（こ）めて全（ぜん）形（がた）を見（み）せて（い）たのです。作品（さくひん）の状（じやう）態（たい）が良（よ）いので折帖（せせつ）の姿（すがた）を見（み）て戴（た）くため（ため）にそう（そう）された（た）ので（い）しょう。

第四章（しやう）章（ちやう）章（ちやう）の展示（しゆ）は繡技（しゅうぎ）が多（た）様（さ）化（か）し工芸（こうげい）的な美（び）を極（こ）めた黄金（くわんごん）期（き）、極楽（ごくらく）往生（おんじやう）への願（ねが）いを込（こ）めて毛髪（もうはつ）を使用（し）した髪繡（かむい）の登場（だうじやう）、最後に超絶（ちやうせつ）技巧（きこう）とも称（な）すべき高度（こうた）な繡技（しゅうぎ）が施（せ）された近世（きんせい）の繡（しゅう）仏（ぶつ）作品（さくひん）の登壇（とうだん）へと導（みち）かれて大団（だいたん）円（えん）を迎（むか）えます。その内（うち）、第四章（しやう）章（ちやう）に当（あた）る展示（しゆ）室（しつ）に置（お）かれた行灯（あんどん）型（がた）展示（しゆ）ケース（けい）（挿図（さくず））を見（み）て嬉（うれ）しく（な）りました。大（お）きな直方（ちくぱう）体（たい）の箱（はこ）がケース（けい）内（うち）に納（な）められ、四（よ）面（めん）のガ（ガ）ラス（らす）とほとん（ほとん）ど至（いた）近（ちか）距離（きり）にある各（かく）面（めん）に繡（しゅう）仏（ぶつ）が掛（か）かっ（か）って（い）て、叶（かな）うなら（ら）ば直（ちか）に作品（さくひん）を味（あじ）わって貰（もら）いたいという気（き）持（も）ちがこ（こ）こでも（でも）ひしひしと伝（つた）わって参（ま）ります。正（ただ）にこの「糸（いと）のみほとけ」展（てん）の担（た）当（たう）者（しや）はもの（もの）に對（たい）する愛（あい）情（じやう）が半端（はんぱん）ないほど豊（とよ）潤（じゆん）で、観（くわん）者（しや）の五（ご）感（かん）に訴（こ）え掛（か）ける展示（しゆ）を實現（じけん）された努（こ）力（りき）に對（たい）し満腔（まんかう）の敬（けい）意（い）を表（あらわ）したいと思（おも）います。



展示風景

出陳一覽

名品展

珠玉の仏たち

なら仏像館

10月10日(水)〜

彫刻

〔第1室〕

- 如来立像 当館
- 藏王権現立像 当館
- 如来立像 当館
- 地藏菩薩立像 当館
- 毘沙門天立像 当館
- 狛犬 当館



◎狛犬 当館

〔第2室〕

- 獅子 当館
- 獅子 当館
- 薬師如来坐像 当館
- 弥勒菩薩立像 室生寺
- 観音菩薩立像 細見美術財団

〔第3室〕

- 宝冠阿弥陀如来坐像 安楽寿院
- 阿弥陀如来坐像 当館
- 阿弥陀如来坐像 金剛寺
- 阿弥陀如来立像 当館
- 阿弥陀如来立像 個人
- 阿弥陀如来立像 個人

〔第4室〕

- 毘沙門天立像 如法寺
- 菩薩坐像 観音寺
- 菩薩立像 金竜寺
- 薬師如来坐像 当館
- 文殊菩薩坐像 薬師寺

〔第5室〕

- 誕生釈迦仏立像 正眼寺
- 誕生釈迦仏立像 個人
- 誕生釈迦仏立像 当館
- 誕生釈迦仏立像 当館
- 如来立像 当館
- 菩薩立像 法起寺
- 菩薩立像 興福院
- 菩薩半跏像 神野寺
- 菩薩半跏像 法隆寺
- 観音菩薩立像 観心寺
- 観音菩薩立像 金剛寺
- 如来坐像 個人
- 誕生釈迦仏立像 個人
- 二仏並坐像 個人
- 菩薩立像 個人
- 十一面観音菩薩立像 個人
- 力士立像 光明寺
- 如来立像 当館
- 如来立像 園城寺
- 釈迦如来坐像 文化庁
- 薬師如来坐像 薬師寺
- 不動明王立像 当館
- 勢至菩薩立像 当館

〔第6室〕

- 阿弥陀如来立像(裸形) 浄土寺
- 阿弥陀如来立像 興福寺
- 多聞天立像 当館
- 如来三尊像 当館
- 如来三尊像 個人
- 天部形立像 兵庫県
- 如来立像 当館
- 釈迦如来坐像 室生寺
- 如意輪観音菩薩坐像 当館
- 吉祥天立像 法明寺
- 阿弥陀如来坐像 歓喜寺
- 阿弥陀如来坐像 西大寺

〔第7室〕

- 観音菩薩立像 観心寺
- 観音菩薩立像 当館
- 光背(二月堂本尊所用) 東大寺
- 十一面観音菩薩立像 勝林寺

〔第8室〕

- 義満僧正坐像 岡寺
- 天神坐像 興喜天満神社
- 獅子・狛犬(二対) 手向山八幡宮
- 梵天立像 秋篠寺
- 救脱菩薩立像 秋篠寺
- 不動明王及二童子立像 新薬師寺
- 龍猛菩薩立像 泰雲院
- 地藏菩薩立像 十市町自治会
- 准胝観音菩薩立像 弘仁寺
- 明星菩薩立像 文化庁
- 地藏菩薩立像 大福寺
- 地藏菩薩立像 新薬師寺

〔第9室〕

- 愛染明王坐像 当館
- 馬頭観音菩薩立像 浄瑠璃寺
- 不動明王坐像 正寿院
- 軍荼利明王立像 園城寺
- 大威徳明王騎牛像 当館
- 不動明王立像 当館

〔第10室〕

- 閻魔王坐像 金剛山寺
- 薬師如来坐像 大慈仙町自治会
- 地藏菩薩立像 長谷寺
- 十二神将立像(午、亥神) 当館
- 僧形神坐像 当館
- 女神坐像 当館
- 童子形坐像 当館
- 金剛童子立像 当館
- 獅子・狛犬(二対) 興喜天満神社
- 阿弥陀如来立像(善光寺式) 善光寺
- 如来立像 個人
- 十二神将立像(辰、未神) 高尾地藏堂
- 如来倚像(押出仏) 室生寺

〔第11室〕

- 阿弥陀如来像 極楽寺
- 阿弥陀如来像 当館
- 阿弥陀五尊像 専称寺
- 阿弥陀八菩薩像 一乗寺
- 阿弥陀八菩薩像 松尾寺
- 覚禪鈔 薬師法 勸修寺
- 薬師三尊像 観音寺
- 薬師十二神将像 薬師寺
- 薬師十二神将像 正暦寺
- 釈迦三尊像 総持寺
- 釈迦十六善神像 海住山寺
- 釈迦十六善神像 慈雲寺
- 釈迦如来像 当館
- 釈迦如来像 西教寺
- 釈迦霊鷲山説法図 当館
- 仏涅槃図 橘寺

〔第12室〕

- 阿弥陀如来立像(善光寺式) 善光寺
- 如来立像 個人
- 十二神将立像(辰、未神) 高尾地藏堂
- 如来倚像(押出仏) 室生寺

〔第13室〕

- 阿弥陀如来像 極楽寺
- 阿弥陀如来像 当館
- 阿弥陀五尊像 専称寺
- 阿弥陀八菩薩像 一乗寺
- 阿弥陀八菩薩像 松尾寺
- 覚禪鈔 薬師法 勸修寺
- 薬師三尊像 観音寺
- 薬師十二神将像 薬師寺
- 薬師十二神将像 正暦寺
- 釈迦三尊像 総持寺
- 釈迦十六善神像 海住山寺
- 釈迦十六善神像 慈雲寺
- 釈迦如来像 当館
- 釈迦如来像 西教寺
- 釈迦霊鷲山説法図 当館
- 仏涅槃図 橘寺

珠玉の仏教美術

名品展

西新館

12月11日(火)〜平成31年1月14日(月祝)

絵画

- 三千仏図 海住山寺
- 胎藏図像 当館
- 大仏頂曼荼羅 当館



◎大仏頂曼荼羅 当館

- 観音菩薩立像(押出仏) 当館
- 如意輪観音菩薩坐像 当館
- 地藏菩薩立像 当館
- 僧形立像 当館
- 十一面観音菩薩立像 当館
- 十一面観音菩薩立像 当館
- 蔵王権現立像(五軀) 大峯山寺
- 破損仏像残欠コレクション 当館

- 阿弥陀如来像 極楽寺
- 阿弥陀如来像 当館
- 阿弥陀五尊像 専称寺
- 阿弥陀八菩薩像 一乗寺
- 阿弥陀八菩薩像 松尾寺
- 覚禪鈔 薬師法 勸修寺
- 薬師三尊像 観音寺
- 薬師十二神将像 薬師寺
- 薬師十二神将像 正暦寺
- 釈迦三尊像 総持寺
- 釈迦十六善神像 海住山寺
- 釈迦十六善神像 慈雲寺
- 釈迦如来像 当館
- 釈迦如来像 西教寺
- 釈迦霊鷲山説法図 当館
- 仏涅槃図 橘寺

- 浄蔵法師伝 当館
- 伝教大師略伝 園城寺
- 六祖思能伝 延暦寺
- 慈覚大師伝 三千院
- 大和国乙木庄条里坪付図 当館
- 大般若経卷第二百四十六(長屋王願経) 瑞光寺
- 称讚浄土仏撰受経 ツムラ漢方記念館
- 華嚴経卷第二十四(二月堂焼経) 当館
- 法華経 卷第三 浅草寺
- 無量義経 禅林寺
- 金銀平脱皮箱 模造 当館
- 木画紫檀双六局 模造 当館
- 洞簫 模造 当館
- (以上は正倉院宝物模造)
- 金銅経筒 施福寺
- 透彫経筒 万徳寺
- 神護寺経帙 当館
- 蓮池時絵経箱 文化庁
- 一切経唐櫃 七寺
- 菊唐草文螺鈿経箱 個人
- 大般若経厨子 当館
- 龍頭 当館
- 透彫幡 個人
- 尾長鳥唐草文華鬘 細見美術財団
- 尾長鳥唐草文華鬘 当館
- 種子華鬘 当館
- 透彫華鬘 神照寺
- 念珠(水晶・菩提子) 当館
- 念珠(水晶) 当館
- 螺鈿玳瑁唐草合子(念珠入) 當麻寺



◎大和国乙木庄条里坪付図 当館

黒漆塗数珠箱・木製数珠

金山寺香炉 当館(田島充氏寄贈)



金山寺香炉 当館

蓮華形香炉 個人

柄香炉 当館

柄香炉 当館

◎四大天王五鈷鈴 当館

◎四大天王五鈷鈴 当館

◎四大天王五鈷鈴 当館

◎四大天王五鈷鈴 当館

◎四大天王五鈷鈴 当館

◎四大天王五鈷鈴 当館

◎四大天王五鈷鈴 当館

◎四大天王五鈷鈴 当館

◎四大天王五鈷鈴 当館

◎四大天王五鈷鈴 当館

◎四大天王五鈷鈴 当館

◎四大天王五鈷鈴 当館

◎四大天王五鈷鈴 当館

◎四大天王五鈷鈴 当館

◎四大天王五鈷鈴 当館

◎四大天王五鈷鈴 当館

◎四大天王五鈷鈴 当館

◎四大天王五鈷鈴 当館

◎四大天王五鈷鈴 当館

◎四大天王五鈷鈴 当館

◎四大天王五鈷鈴 当館

◎四大天王五鈷鈴 当館

◎四大天王五鈷鈴 当館

◎四大天王五鈷鈴 当館

◎四大天王五鈷鈴 当館

◎四大天王五鈷鈴 当館

◎四大天王五鈷鈴 当館

◎四大天王五鈷鈴 当館

鉄鉢形土器

〔大分県宇佐市法鏡寺廃寺出土〕

宇佐市教育委員会(大分県立歴史博物館保管)

*青磁・白磁・独鈷杵・ガラス玉

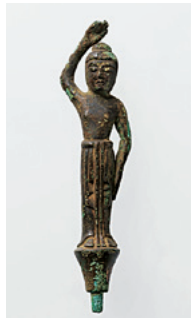
〔大分県中津市瑞雲寺遺跡出土〕

大分県立歴史博物館

*銅造誕生釈迦立像

〔大分県中津市瑞雲寺遺跡出土〕

大分県立歴史博物館



銅造誕生釈迦立像 大分県立歴史博物館

六角形埴仏(三重県天華寺跡出土)当館

火頭形三尊埴仏(伝奈良県橋守寺出土)当館

◎塑像断片(奈良県薬師寺西塔出土)当館

◎塑像断片(滋賀県雪野寺跡出土)当館

◎粟原寺三重塔伏鉢 福命寺

◎山代忌寸真作墓誌 談山神社

◎佐井寺僧道業墓出土品(墓誌・蔵骨器) 当館

◎行基墓誌残片 当館

◎青磁碗・皿(高根県荻村古墓出土) 当館

◎青磁牡丹唐草文深鉢 当館

◎奈良県正暦寺出土 正暦寺

◎奈良県菅生寺五輪塔納置品 菅生寺

◎滑石製弥勒如来像(永久三年銘) 当館

◎長崎県鉢形嶺経塚出土 当館

◎銅製経筒・陶製外筒・法華経 当館

◎銅製経筒(平治元年銘)(出土地不詳) 当館

◎渥美蓮弁文壺 当館

◎和歌山県如法堂経塚出土 当館

◎瀬戸備目文瓶子 当館

◎和歌山県丹鶴山出土 当館

◎和歌山県如法堂経塚出土 当館

◎渥美蓮弁文壺 当館

◎銅製経筒(平治元年銘)(出土地不詳) 当館

◎銅製経筒・陶製外筒・法華経 当館

◎滑石製弥勒如来像(永久三年銘) 当館

◎奈良県菅生寺五輪塔納置品 菅生寺

もっと知りたい!奈良博の魅力

秋の庭園を散策しませんか

当館の隠れた名所、茶室「八窓庵」をとりまく庭園を散策しませんか?

茶室「八窓庵」にも入れます。秋の紅葉にあわせ、当館ボランティアが見どころを解説しながらご案内いたします。

- 【日 程】 11月17日(土)、11月18日(日)
※雨天および庭園の状態が悪い場合は中止
- 【所要時間】 約60分(茶室の入室を含む)
- 【定 員】 各日とも先着30名 ※事前申し込み不可
- 【受付時間】 12:00~ 整理券配布
(13:15から1組5名程度の少人数で、15分間隔で出発)
- 【受付場所】 露地門前(庭園入口)
- 【料 金】 無料

※11月17日(土)・18日(日)は「関西文化の日」のため、名品展も無料でご観覧頂けます。
※詳しくは、当館ホームページの「催し物」をご覧ください。

◆キャンパスメンバーズ

平成30年9月30日現在、「キャンパスメンバーズ」会員の大学等は以下の通りです。

大阪大学・大阪大学歯学部付属歯科技工士学校・関西学院大学・聖和短期大学・関西学院高等部・関西学院千里国際高等部・関西学院大阪インターナショナル・関西大学・関西大学第一高等学校・関西大学北陽高等学校・関西大学高等部、京都外国語大学・京都外国語短期大学、京都教育大学・京都教育大学附属高等学校、京都工芸繊維大学、京都女子大学・京都女子高等学校、京都精華大学、京都大学、京都橘大学、近畿大学文芸学部・近畿大学大学院総合文化研究科、嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学、四天王寺大学人文・社会学部、就実大学人文科学部、帝塚山大学、天理大学、同志社大学・同志社女子大学・同志社高等学校・同志社香里高等学校・同志社女子高等学校・同志社国際高等学校、奈良学園大学・奈良文化女子短期大学部・奈良文化高等学校・奈良学園高等学校・奈良学園登美ヶ丘高等学校、奈良教育大学、奈良県立大学、奈良工業高等専門学校、奈良佐保短期大学、奈良女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、奈良大学、佛教大学、立命館大学、龍谷大学・龍谷大学短期大学 (以上、五十音順)

◎線刻蔵王権現鏡像
〔奈良県金峯山経塚出土〕 金峯山寺
(※は考古資料相互活用促進事業による展示)

名品展

中国古代青銅器(坂本コレクション)
青銅器館

中国古代の商(殷)から漢代に製作された、青銅器の逸品を展示しています。

※◎＝国宝、◎＝重要文化財
※展示品は都合により一部変更する場合があります。

【表紙写真解説】

犀角如意

一柄 正倉院宝物 南倉
長五八・〇 掌の幅五・九

如意は柄の先端に湾曲する掌形を取り付けた形の仏具。本品の掌は、上半部に飴色の犀角を用い、下半部には撥鏤を貼る。撥鏤には花卉と鳥・蝶を彫り表すが、花は花卉を金で作り、弁ごとに小さな真珠を嵌め、花心に伏彩色を施し水晶を嵌める。撥鏤は正背面で色を変えるほか、花卉の表現や伏彩色などにも微妙な変化をつける。さらにこの撥鏤を覆うように、向かい合う二羽の鳥がとまる花文を透彫した象牙を飾る。

宝庫には九点の如意が納められるが、その中でも本品は犀角、撥鏤、象牙などの種々の珍材と工芸技法がふるわれた、格別に華麗な品といえる。

田澤 梓(当館学芸部研究員)

❖ 第70回正倉院展公開講座❖

- 10月27日(土) 「鳥兜様の楽帽の復元について」
山片 唯華子 氏 (宮内庁正倉院事務所保存課調査室主任研究官)
- 11月4日(日) 「月借銭のしくみ—古代の官営高利貸—」
榮原 永遠男 氏 (大阪市立大学名誉教授)
- 11月10日(土) 「正倉院三彩10話
—正倉院に伝わる二彩・三彩陶器の特徴と謎—」
吉澤 悟 (当館学芸部列品室長)
- 【時 間】 各回とも13:30~15:00(13:00開場)
【会 場】 当館講堂
【定 員】 194名(先着順)

※聴講無料(聴講には入場整理券が必要です)
※当日12:00から講堂前にて入場整理券を配布します(お1人様につき1枚)。
※入場整理券の受取の際には、本展の観覧券もしくはその半券、奈良博プレミアムカード等をご提示ください。
※入場受付は講座開始後30分で終了いたします。

❖ サンデートーク ❖

美術や歴史のこと、博物館の活動など、当館ならではの多彩なテーマ、日頃聞くことの出来ない「通(つう)」なお話をご用意して、皆様をお待ちしております。どうぞお気軽にご参加ください。

- 10月14日(日) 「仏像写真考」
佐々木 香輔 (当館学芸部資料室主任)
仏像写真というジャンルがあります。古くは大正期の小川晴暘、戦後の土門拳や入江泰吉が仏像を写真で表現しました。現代において仏像写真はどのような意味を持ちうるのでしょうか？自身の経験と具体的文献を踏まえ、皆さんと一緒に考えたいと思います。

- 11月18日(日) 「中世絵巻と宮曼荼羅」
谷口 耕生 (当館学芸部教育室長)
鎌倉仏教の興隆とともに盛んに制作された縁起絵巻や高僧伝絵巻。これら中世絵巻に表される神社の景観描写に宮曼荼羅の型が用いられることの意味を読み解きます。

- 12月16日(日) 「平安時代の宮中の日常—政治と生活—」
齋木 涼子 (当館学芸部主任研究員)
物語などに描かれる、きらびやかな宮中の日常は実際どのようなものだったのか。天皇や貴族の政務や生活の様子を、日記などから読み取ります。

- 平成31年1月20日(日) 「奈良時代の二つの紫紙金字経」
野尻 忠 (当館学芸部企画室長)
紫色に染めた紙に金泥で経文を記した紫紙金字経。奈良時代の遺品として『金光明最勝王経』と『華嚴経』が有名です。これら紫紙金字経の書写の実態を、正倉院文書と照らし合わせながら探ります。

- 平成31年2月17日(日) 「仏像調査からわかること その5
—南予地方の調査の成果を中心に—」
岩田 茂樹 (当館学芸部上席研究員)
日本には、あまり一般に知られていないけれども、優れた、そして興味深い仏教彫刻がまだまだ残っています。今回は、愛媛県のいわゆる南予地方における調査の成果を中心にご報告します。

- 平成31年3月17日(日) 「春日東西塔の新知見」
中川 あや (当館学芸部主任研究員)
神仏習合の影響を受けて春日大社境内に建立された春日東西塔。今は博物館敷地内に土壇を残すのみですが、昭和40年の発掘調査出土品の再整理により、近年明らかになりつつある当時の姿をご紹介します。

【時 間】 各回とも14:00~15:30 (13:30開場)
【会 場】 当館講堂
【定 員】 194名 (先着順)

※聴講無料(入場には入場整理券が必要です)
※当日12:30から当館講堂前にて入場整理券(お1人様につき1枚)を配布します。
※入場受付はトーク開始後30分で終了いたします。

❖ 正倉院学術シンポジウム2018❖

■「正倉院宝物と新羅」

【日 時】 11月3日(土・祝)13:00~17:30
【会 場】 東大寺総合文化センター 金鐘ホール
【定 員】 250名(事前申込制、定員に達し次第締め切り)
【応募方法】

- ◆往復はがき
往信用はがきに、[正倉院学術シンポジウム聴講希望]と明記の上、[氏名・ふりがな・住所・郵便番号・電話番号・性別・年齢]を記入してください。
返信用はがきには宛名・住所を記入してください。
- ◆ホームページ申込みフォーム
奈良国立博物館ホームページ「講座・催し物」内の「正倉院学術シンポジウム2018」申込み画面より必要事項を入力の上、お申し込みください。
- 【受付期間】 10月9日(火)~10月30日(火)必着
※応募はいずれかの方法で1人につき1回でお願いいたします。

❖ ボランティア解説 ❖

■「正倉院展のみどころ」

正倉院展の会期中、当館ボランティアがスライドを使用して展覧会のみどころを分かりやすく解説いたします。ご鑑賞にあわせてぜひお立ち寄りください。

【日 時】 「第70回 正倉院展」会期中、毎日
①10:00~ ②11:00~ ③13:00~ ④14:00~
※ただし、10月27日(土)、11月4日(日)、11月10日(土)は公開講座のため、③④の回は中止となります。

【所要時間】 約30分
【会 場】 当館講堂(各回20分前より開場)
※満席になり次第締切とさせていただきます
【定 員】 先着194名(事前申し込み不可)
※聴講は、当日正倉院展へ入場中の方に限らせていただきます。

❖ 奈良トライアングルミュージアムズ関連イベント❖

■「仏像を撮ってみよう」

普段は一般の方の目にふれない撮影スタジオにおいて、写真技師のアドバイスをもとに、みなさまに撮影していただくイベントです。

【日 時】 12月15日(土)
①10:00~12:00 ②13:30~15:30
【講 師】 佐々木香輔(当館学芸部資料室主任/写真技師)
【定 員】 各回15名
※応募者多数の場合は抽選となります。

【参加費】 無料
【申込期間】 10月15日(月)10時~11月16日(金)17時
【申込方法】 当館ホームページよりお申し込みください。
※詳しくはホームページの「催し物」をご覧ください。

◆奈良国立博物館賛助会

平成30年9月30日現在、特別支援会員4団体、特別会員4団体、一般会員(団体)16団体、一般会員(個人)63名のご入会をいただいております。

〔特別支援会員〕 ㈱読売新聞大阪本社、結の会、㈱葉風泰夢、桃谷樓

〔特別会員〕 ㈱奥村組西日本支社、㈱朝日新聞社、㈱ライブアートブックス、㈱ゴードー

〔団体会員〕 日本通運㈱関西美術品支店、㈱尾田組、㈱伏見工芸、㈱木下家具製作所、㈱天理時報社、㈱きんでん奈良支店、ノブレスグループ、奈良信用金庫、ひかり装飾㈱、校倉な会、㈱南都銀行、小山㈱、医療法人社団成風会、金剛㈱、㈱グラスパウハウージャパン、㈱志津香

〔個人会員(新規)〕 柳川泰彦様(平成30年9月ご入会)

展示品の
みどころ



びしゃもんてんりゅうぞう
毘沙門天立像

木心乾漆造 彩色・截金
像高28.3cm
奈良時代(8世紀)
愛媛 如法寺

近年の調査で発見された新出作品。愛媛県西部の城下町大洲の如法寺所蔵。奈良時代後期に作例の集中する木心乾漆造の像。

像はまず三本の心木(針葉樹材)を組み、これに麻布を巻いた後、乾漆を盛り上げて造形する。ただし腕の心は木材ではなく金属を用いており、大きな動きを示す像容に対応した技法と考えられる。毘沙門天像本体および邪鬼の一体の黒目には金属の球を嵌入する。これらの技法は、奈良とその周辺に遺存する奈良時代の乾漆像ないし塑像に類例を見いだす。表面に施された彩色・截金文様も、奈良・東大寺戒壇堂四天王立像のそれに通ずる。なお二体の邪鬼は木心を設けず乾漆盛り上げのみで造り、その下の洲浜状の岩座(上半部が当初)は逆に木彫のうえに薄く乾漆をかける。

江戸時代の地誌に見える情報ながら、本像はかつて奈良・信貴山寺の僧侶が所持し、これを大洲藩加藤家の家臣某が入手して大洲へ持ち帰ったという。畿内から移されたという史実を反映する可能性があらう。

歌舞伎役者が見得を切るかのような毘沙門天の大きなポーズや、蹲り、あるいはのけぞる邪鬼のユーモラスな姿態が見どころであり、像高一尺に満たない小像ながらその存在感には目を見はる。

岩田 茂樹(当館上席研究員)

◆名品展「珠玉の仏たち」にて展示中



けいこうぶじんはにわ
挂甲武人埴輪

群馬県榛東村高塚古墳出土
高123.0cm
古墳時代(6世紀)
群馬大学(群馬県立歴史博物館保管)

甲冑で完全武装した人物像。粘土紐の輪を幾重にも積み、大小の円筒形のパーツを作り、それを組み上げて人物像に仕上げている。基本的な作りは壺と同じ。だから中は空洞である。

「埴輪」(=粘土の輪)とは、良く言った言葉だと思う。埴輪は全国にあるが、東国の埴輪は个性的で造形力の豊かなものが多い。中でも上野国(現在の群馬県)の埴輪は素晴らしい。唯一の国宝埴輪として有名な武人埴輪(東京国立博物館蔵)は群馬県太田市の出土品。天理参考館(奈良)の武人埴輪も大和文華館(奈良)の鷹匠の埴輪も群馬の埴輪である。古墳造りが盛んだった土地柄ゆえに、良い埴輪職人が育ったのであろう。本品もまさに群馬の産品。額の尖った衝角付冑を被り、小札を連ねた挂甲を着け、刀に手をかける武人の姿が凛々しい。冑の左右には顔を守る大きな脇立が付いておりカッコいい。よく見れば首にはネックレス、袴には蕨手文様が描かれ、おしゃれでもある。当時の武装や風俗を立体的に伝える点で、埴輪は第一級の資料である。本品のような抜刀姿勢は武人埴輪の中でも早い段階で、この後に弓や矢を併せ持つようになり、国宝武人埴輪のスタイルが完成する。本品は関西初公開。東国武士のご先祖の姿をぜひ堪能して欲しい。

吉澤 悟(当館学芸部列品室長)

◆12月11日～平成31年3月14日 名品展「珠玉の仏教美術」にて展示

開館日時(10月～12月)

■開館時間／午前9時30分～午後5時

・名品展・特別陳列・特集展示は、金・土曜日は午後8時まで(12月28日・29日を除く)。

・「第70回正倉院展」会期中、月～木曜日は午前9時～午後6時、

金・土・日曜日、祝日は午前9時～午後8時。

※いずれも入館は閉館の30分前まで

■観覧料金 名品展・特別陳列・特集展示

	一般	大学生	高校生以下
個人(当日)	520円	260円	無料
団体	410円	210円	無料

※団体は20名以上です。

※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。

※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ加盟校の学生の方は無料です。

※毎月22日にご夫婦で観覧される方は各半額、11月22日は無料になります。

※中学生以下の方と一緒に観覧される方、冬休み期間(12月・1月)で開館時間延長日の午後5時以降に観覧される方は、団体料金を適用します(子どもといっしょ割引)。

■休館日／毎週月曜日

・ただし、10月8日、12月17日・24日・31日は開館し、

10月9日(火)、12月25日(火)、1月1日(火)は休館。

・正倉院展の会期中については無休。

★無料観覧日(名品展・特別陳列のみ)／

11月17日(土)・18日(日)(関西文化の日)、12月17日(月)(おん祭お渡り式)

■観覧料金 「第70回正倉院展」

	一般	高校・大学生	小・中学生	親子ペア
個人(当日)	1,100円	700円	400円	
団体・前売	1,000円	600円	300円	1,100円(前売のみ)
オートムレイト	800円	500円	200円	

※団体は20名以上です。 ※前売券の販売は10月26日(金)までです。

※親子ペア観覧券は、一般1名と小・中学生1名がセットになった割引観覧券です。前売のみで、販売は主要プレイガイド、コンビニエンスストア(一部)に限りです。

※オートムレイトチケットは、閉館の1時間30分前から入場できる当日券です(当館当日券売場のみで、閉館の2時間30分前から販売します)。

※障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。

※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ加盟校の学生の方は当日券を400円で、職員の方は団体料金でお求めいただけます。

※この料金で、名品展(なら仏像館・青銅器館)も観覧できます。



●バス停

[交通案内] 近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス(外回り)「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので最寄りの県営駐車場等(有料)をご利用ください。